

8300CD 取扱説明書

1: 安全上・使用上のご注意



正しく安全にお使いいただくために

ご使用前に必ずこの説明書をお読みください。

お読みになった後は、大切に保管してください。

すべての警告に注意を払ってください。

必ず手順に従ってください。

水の近くでは使用しないでください。

掃除する際は、必ず乾いた布をお使いください。

製造元の指示に従って設置してください。

次のような場所に置かないでください。

- ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
- ・直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になる場所

必ずAC 100Vのコンセントに電源プラグを差し込んで使用してください。



ぐらついた台や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。

落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

長時間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

もし雷が鳴り出したら、機器や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

何か機器に異常が生じた場合、お客様による修理などは危険ですのでおやめください。安全を確認してから販売店または輸入代理店にお問い合わせください。

※注意：これを無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性が想定されます。内容をよく理解し、操作手順にしるされていないことは決しておこなわないでください。

この機器を設置する際は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使い方はしないでください。内部に熱がこもり火災の原因になることがあります。

- ・あお向けや横倒し、逆さまにする
- ・押し入れ・AVラック以外の本箱など風通しの悪い場所に置いたりして使用する
- ・テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

※警告：必ず付属の電源コードを使用してください。また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

電池を使用するときは、極性表示に注意し、表示のとおり正しく入れてください。

指定以外の電池のご使用、また新しい電池と古い電池を混ぜてのご使用はおやめください。

また、電池は火のそばや直射日光のあたるところ、暖房器具などの高温の場所に置かないでください。

※注意：間違えると電池の破損、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



このラベルは、機器にレーザーコンポーネントが含まれていることを指示します。レーザー光源をのぞき込まないでください。

※電源電圧：Audiolab 8300シリーズの電源電圧は、後部パネルに示されてます。もしこの電圧の値がお住いエリアの電圧と合っていない場合、販売店または輸入代理店にお問い合わせください。

IECメインプラグを取りはずすと、後部パネルにあるメイン供給ヒューズが確認できます。もしヒューズに破損がある場合、交換をする前に、異常がある個所の原因を確認して下さい。

ヒューズの値は次のとおりです。

100-120V、T1.6AL 250V スローブロー

2: ご使用になる前に

お買い上げいただきありがとうございます

本機は高品質のDACを組み込んだAudiolab社の最新CDプレイヤーです。
本機はハイエンド・オーディオクオリティのSabre1 32bit DACを採用することで最大192kHz/24bit (USB入力では最大384kHz/32bit) のデジタルソースの再生にも対応しています。

本機は7種類のデジタルフィルター機能を搭載しています。
用途や好みに合わせてフィルターを使用することで その場に最適な音質をお届けします。本機はCDを再生する為だけの機器ではありません。
多様なデジタルソースに対応した デジタルプレーヤーとしてお客様のオーディオライフに長く寄り添うことのできる機器となっています。

本機の性能を最大限発揮させるために、この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。

入力：

- ・ CDディスク プレイバック
- ・ リニアPCM AES3 (XLR) デジタル入力 x 1
- ・ リニアPCM 同軸 (COAX) デジタル入力 x 2
- ・ リニアPCM オプティカル (OPT) デジタル入力 x 2
- ・ USB 2.0ポート デジタル入力 x 1

出力：

- ・ バランス (XLR)、アンバランス (RCA) ステレオアナログ出力
- ・ オプティカル、同軸 デジタル出力 x 各 1
- ・ XLR デジタル出力 x 1

操作機能：

- ・ 入力デジタルソースの自動検出、オートデコーディング
- ・ 7種類から選択できるデジタルフィルター
- ・ デジタルアッテネーターによるボリューム操作
- ・ ミュート (消音)、バランスコントロール機能
- ・ 12Vトリガーによる接続機器の電源連携機能

- ・ 音声出力レベルの固定/可変 切り替え
- ・ ディスプレイの輝度調整
- ・ オートスタンバイ機能

※注意：

本機はパワーアンプに直接接続された可変出力が用いられます。
一緒にご使用されるアンプにゲインコントロール機能が搭載されている場合は、アンプ側のゲインを調整したのち、本機のボリュームコントロールで音量を調整してください。また、本機をプリアンプに接続する場合は、まず本機の音声出力レベルを設定したのち プリアンプ側で音量の調整を行ってください。

本体・付属品

以下のものが同梱されているか確認してください。

- ・ 8300CD本体
- ・ 電源ケーブル
- ・ CD-ROM (USBドライバー用) x 1
- ・ リモートコントローラー (電池含) x 1
- ・ 取扱説明書 (本書)
- ・ 保証書

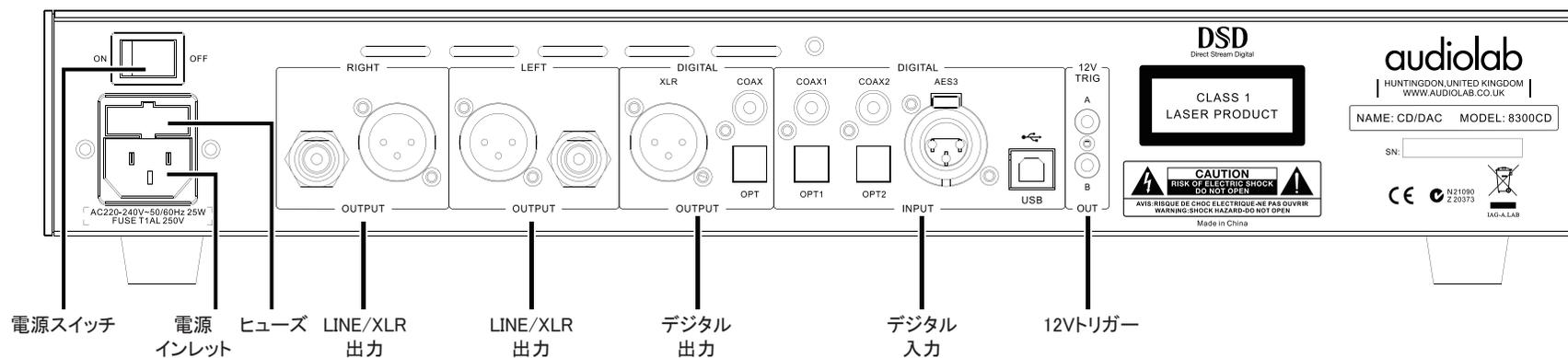
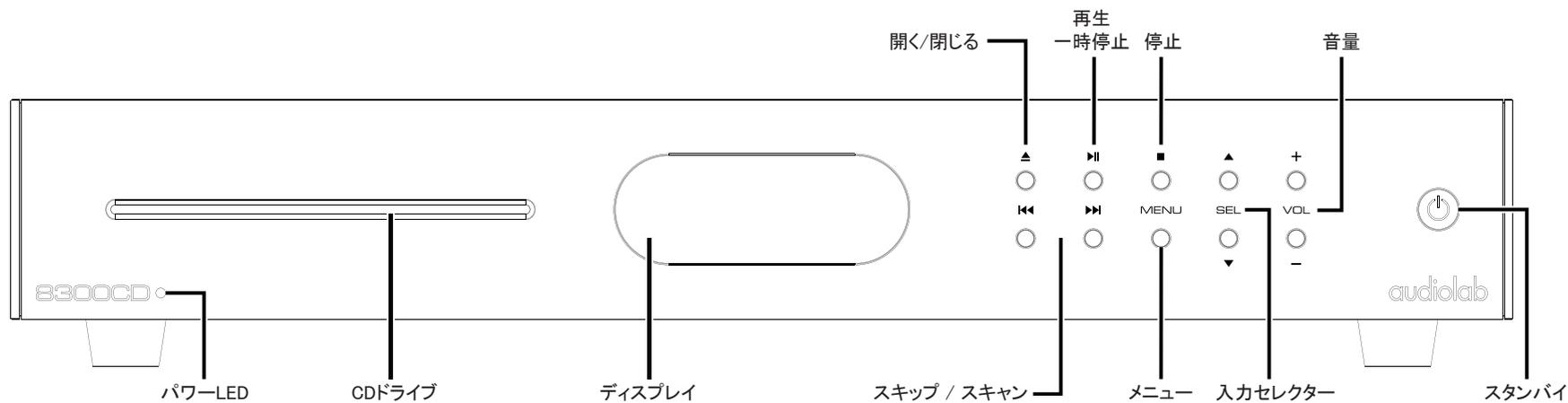
上記のものが欠品もしくは破損していた場合、お求めになった販売店または、輸入代理店 までご連絡ください。尚、梱包箱を含めた付属品はアフターサービスの際に必要なになります。大切に保管してください。

設置

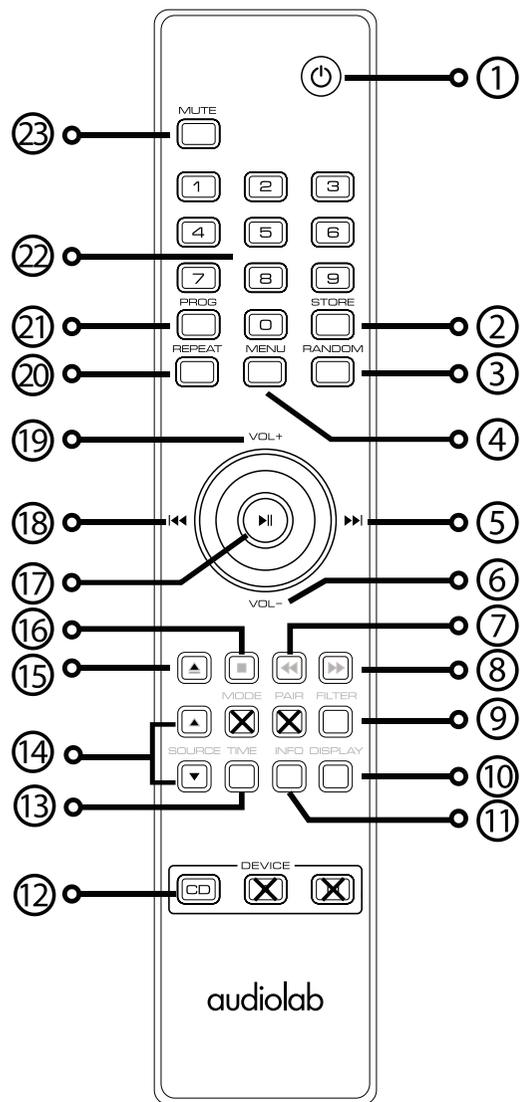
本機を設置する際は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し離して置いてください。また、ぐらついた台や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。必ず付属の電源コードを使用し、AC 100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでください。

もし本機後部パネルに表示されている電圧の値がお住まいエリアの電圧と異なる場合販売店または輸入代理店にお問い合わせください。

3: 各部の名前 (本体)



4: 各部の名前と働き (リモコン) 注意：×で消されている箇所は、他のAudiolabユニットで使用可能なボタンになります。本機でのご使用はできません。



- | | | |
|----|-------------|--|
| 1 | STANDBY | 電源をオン/オフします |
| 2 | STORE | プログラムモードでトラックを保存します |
| 3 | RANDOM | ランダムモードを選択します |
| 4 | MENU | メニューモードを選択します |
| 5 | ▶▶ | 後ろの曲にスキップします
次のメニューページまたは設定に移動します |
| 6 | VOL- | 音量を下げます |
| 7 | ◀◀ | 長押しで早戻します |
| 8 | ▶▶ | 長押しで早送りします |
| 9 | FILTER | デジタルフィルターを選択します |
| 10 | DISPLAY | ディスプレイをオン/オフします
ディスプレイの明るさレベルを調整します |
| 11 | INFO | 曲名やアーティスト名表示を切り替えます |
| 12 | CD | 8300CD用リモコンに切り替えます |
| 13 | TIME | 曲の残り時間と経過を選択します |
| 14 | SOURCE | ソース入力を選択します |
| 15 | ▲ | ディスクが排出されます |
| 16 | ■ | 再生中に押すと停止します |
| 17 | ▶ | 再生、一時停止をします |
| 18 | ◀◀ | メニューページを選択または設定します
一度押すと、再生中の曲の頭出しをします
二度押すと、前の曲にスキップします
前のメニューページまたは設定に移動します |
| 19 | VOL+ | 音量をあげます |
| 20 | REPEAT | リピート再生モードの切替をします |
| 21 | PROG | プログラム再生に使用します |
| 22 | NUMBER KEYS | 選曲、プログラムに使用します |
| 23 | MUTE | ミュート (消音) 機能をオン/オフします |

※注意：本コントロールは8300シリーズ共通になります。
本機を操作する際は、「CD」を押してください。

使用する電池に関して

リモコン裏面のフタを外し、ケースの+と-の表示に合わせて付属の乾電池 (単4形) 2本を入れて、フタを閉めてください。

指定以外の電池のご使用、また新しい電池と古い電池を混ぜてのご使用はおやめください。

また、電池は火のそばや直射日光のあたるところ、暖房器具などの高温の場所に置かないでください。

不要になった乾電池を破棄するときは、お住いの地域の条例に従って処理してください。

※注意：間違えると電池の破損、液漏れにより、火災けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

リモコン使用上の注意

このリモコンを用いて、いくつかのAudiolab製品を操作することができます。

×で消されているリモコンボタンは、他のAudiolab製品で使用するためのボタンで、本機でのご使用はできません。

リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、15メートル以内の距離で操作してください。

本体とリモコンの間に障害物を置かないでください。

本体のリモコン受光部に日光や照明があたると、リモコン操作が出来ない事があります。その場合は、本機を移動してみてください。

本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器が誤動作することがありますのでご注意ください。

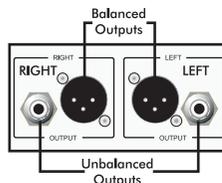
5: 接続のしかた - 1

アナログ出力

バランス出力 (Balanced Outputs)

バランス接続は、幅広いダイナミックヘッドルームと高いS/N比により、高品質の音声信号を出力する事が出来ます。

使用するアンプにバランス入力がある場合に限り、使用する事が出来ます。



アンバランス出力 (Unbalanced Outputs)

使用するアンプの入力にRCAケーブルを使い接続します。

デジタル出力

同軸 (COAX) ・ オプティカル (OPT) 出力

1つの同軸 (COAX) と 1つのオプティカル (OPT) SPDIF出力があります。それぞれの出力から、DACまたはアンプの入力までデジタル同軸ケーブルまたはオプティカルケーブルで接続して下さい。

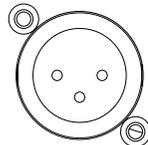
COAX



OPT

AES/EBU出力

1つのXLRデジタル信号出力があります。規格はAES3に対応し、シールドされた110オームのツイストペアケーブルを使い接続して下さい。



デジタル入力 (COAX1,2/OPT1,2)

同軸 (COAX) とオプティカル (OPT) の入力がそれぞれ2つずつあります。入力は2chのSPDIF規格に対応し様々なデジタルメディアに接続が可能です。

それぞれ接続する機器に対応したデジタル同軸ケーブルもしくはオプティカルケーブルを使い接続して下さい。

出力する機器がマルチチャンネルの音源に対応している場合、その機器の設定出力をSPDIFのリニアPCMステレオ出力に設定して下さい。

COAX1



OPT1

COAX2



OPT2

USBポート

USB2.0ケーブルを使いコンピューターと接続して下さい。DSDサポートのUSB DACとして使用できます。(詳しくは別紙 (DSDセットアップガイド) 参照) コンピューターのメディアプレーヤーがマルチチャンネル出力に対応している場合、そのメディアプレーヤーの出力をステレオに設定して下さい。



USB



AES / EBU入力

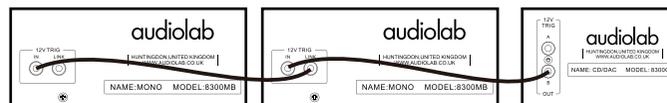
1つのXLRデジタル入力があります。

最高192kHzのリニアPCMまで対応しています。

12Vトリガーコネクタ

8300シリーズ複数台でオーディオシステムを構成している場合、12Vトリガー回路を使用することで、一台分の操作で全ての電源操作が可能になります。

マスターに設定した機種トリガーから数珠つなぎに接続する事により、それ以降のスレーブに設定された機種電源操作をまとめて制御する事ができます。本機能を使用する場合、機器同士の接続は本体背面の「12V TRIG」のコネクタを使用して下さい。本機能はメニュー内で機能の有効/無効が変更できます。詳しくは 10ページをご参照ください。

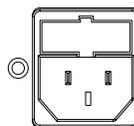


2台の8300MBのパワーアンプによる8300CDのトリガー操作

電源入力

本機の主電源を入れる前に、他のオーディオシステムすべての接続が行われたことを確認して下さい。

本機背面の主電源スイッチが切られてる事を確認して下さい。付属されたケーブルを使用して、ACコンセントにつないでください。



[AC100V-50/60Hz 25W FUSE T1.6AL 250V]

6: 基本操作 - 1

電源を入れる

使用するすべての機器を接続し、主電源をオンにします。
その後、本機を含むすべての機器の電源を入れます。
電源を入れると、LEDが点灯します。

電源を切る場合は、トリガーを有効にしている場合を除き、まずアンプの電源を切ってから、本機の電源を切ってください。

スタンバイモード

本機は、電源を入れるとスタンバイモードになります。
○ボタンを押してスタンバイモードを解除すると、LEDが明るくなり、しばらくすると本機が起動します。

また、3秒間のボタンを長押しすると、オートスタンバイ機能が起動します。この機能を用いることで、20分間操作しない状態が続くと、本機は自動的にスタンバイモードになり、LEDは弱くなります。

音量レベルの変更

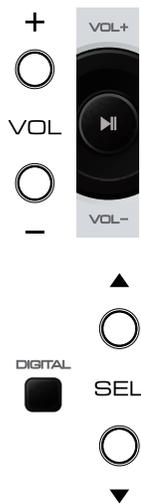
フロントパネルの「VOL+/-」を押すと音量レベルが変更します。
範囲は-80dBから+3dBまでであり、0dBは通常2.0Vrmsです。

工場出荷時ボリュームは、-20dBに設定してあります。電源を切る時の音量レベルが-20dB未満に設定された場合、次に起動するときの初期音量レベルは、最後に使用した値になります。もし音量レベルが-20dBより高い場合、初期音量レベルは、-20dBになります。

CDを再生する前に

ディスプレイに「CD」の文字が表示されているか確認します。
もし、表示されていない場合は、リモコンの「DIGITAL」もしくは本機フロントパネルの「SEL」を押して「CD」を選択してください。

audiolab



ディスクを入れる

CDをスロットに挿入すると、ディスク情報が表示されます。
トラック情報を読み込むと、ディスクは停止します。

CDを再生する

- ▶▶ を押すと再生をはじめます。
- ▶▶ を押すと一時停止、再度押すとまた再生します。
- を押すと停止します。
- ▲ を押すとディスクを取り出せます。

頭出し(スキップ)をするには

- ▶▶ を押すと次の曲にスキップして再生を始めます。
- ◀◀ 再生中に一度押すと、再生中の曲の始まりに戻ります。
- ▶▶/◀◀ を押すとリピート機能が作動します。

※再生中にスキップボタンを押すと、押した回数だけ曲を飛び越します。ディスク上のトラック数を超過した場合は、トラック1から再度サーチします。逆にトラック1より前に超過した場合は、最後の曲から前方向にサーチします。

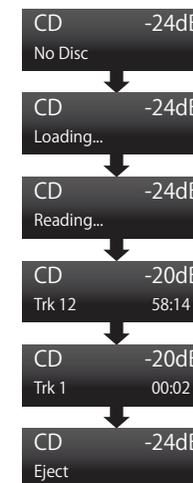
好きな曲を聴くには(リモコンのみ)

再生中または停止中にリモコンの数字ボタンでトラック番号を押すと、そのトラックから再生が始まります。

10トラック以上を含むディスクの場合、本機は2番目のデジタル入力があるか自動的に待ちます。入力がない場合、入力した1桁目のトラックから開始されます。

もし操作を間違えた場合、表示は前の状態に戻ります。

※ディスクを読み込む前に、トラックを事前選択することができます。その場合、ディスクの読み込みが終了すると同時に、選択したトラックから再生されます。



6: 基本操作 - 2

聴きたい曲を探すには (サーチ)

本体表面にある▶▶ボタンもしくは、リモコンの▶▶ボタンを押すと早送りとなります。

ボタンを押し続けるとボタンを離すまでディスク全体で早送りが継続されます。

ボタンを押したままディスクの末尾に到達すると、ディスクが終わる約一秒前でリピート状態になります。

ボタンをはなすと、本機はディスクの終わりまで再生します。

本体表面にある◀◀ボタンもしくは、リモコンの◀◀ボタンを押すと巻き戻しになります。

ボタンを押し続けるとボタンを離すまでディスク全体で巻き戻しが継続されます。

くり返し再生するには (リピート再生)

リピート再生する場合は、「REPEAT」を押します。

消音 (ミュート) にするには

消音のオン/オフを切り替える場合は、「MUTE」を押します。

好きな順に再生するには (プログラム再生)

最大 99 曲までプログラムできます。

ディスクが停止している時のみプログラムを作成することができます。

最初に「PROG」を押します。

その後、リモコンの数字ボタンで曲番を選び「STORE」を押して保存します。

作成したプログラムで再生するには▶▶を押します。

プログラム再生を終了するには■を押します。

プログラムは、消去するまで本機のメモリに保存されます。

プログラムを消去するには■を2度押します。

ディスプレイの表示を切り替える

アーティストやタイトルを表示するには、「INFO」を押します。ボタンを押すたびに、表示が切り替わります。ディスクを再生する際、本機は最後の表示設定を引き継ぎます。もし別の入力に切り替えたのち、CDモードに戻した場合、本機は最後の使用した状態を呼び出し、最後に再生した箇所から再び再生します。

注意：CDディスクが本機能に対応していない場合はアーティストやタイトルは表示されません。

本機能はメニュー内で機能の有効/無効が変更できます。

詳しくは 10 ページをご参照ください。

デジタル入力選択

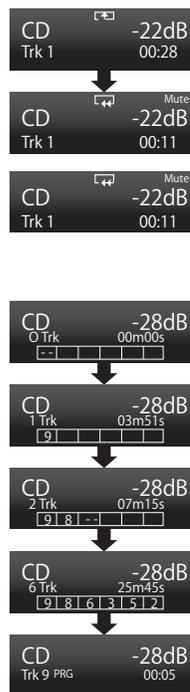
デジタル入力を選択するために、リモコンの「DIGITAL」または本体フロントパネルの「SEL」を押してください。入力ソースのデジタルロックがロックされると、フロントパネルのディスプレイに入力ソースのサンプリング周波数が表示されます。

ディスプレイの表示が「Unlock」の場合は何らかの理由で正常に同期できていません。PC または再生ソフトの設定、接続、電源等をご確認下さい。

本機の入力にデジタル同軸またはオプティカルが選択されている場合、再生コントロールは動作しません。USB 接続の場合、リモコンやフロントパネルのボタンを使用し USB 接続された PC の音源の、再生、一時停止、頭出し、スキップ等の制御を行うことが出来ず。

注意：本機のデジタル回路を最適に動作させるため、音源のデータに対して事前のDSP処理やアップサンプリングはなるべく行わないで下さい。

>>次ページに続く



6: 基本操作 - 2

PC等のソース（音源）ユニットにボリュームコントロール機能が搭載されている場合、ソース（音源）側の音量は最大にし、音量の調節は本機で行って下さい。その際、ソース（音源）ユニットの取扱説明書も併せて参照して下さい。

外部入力を使用して再生している場合：

- ・音量レベルは変更可能です。
- ・ミュートは操作可能です。
- ・ディスプレイのオン/オフ、輝度調整ができます。

USBを再生する

付属品として提供されているCD-ROMからAudiolabオーディオドライバーをインストールします。CD-ROMにインストール手順が記載されていますので、ソフトウェアをインストールする際はご参照ください。

USBケーブル (type A to type B) で本機をお持ちのパソコン等に接続します。次にリモコンまたはフロントパネルのボタンを使用して再生モードをUSB入力に変更します。

USBの入力信号がない場合は「Unlocked」と表示されます。デジタル入力の再生は、USBにインプットシグナルがある時に、入力データ上にロックします。ディスプレイには、デジタル信号と、コンピューターにある音楽ファイルのサンプリング周波数出力を表示します。入力サンプリング周波数が384kHzの場合、PCM384kHzと表示されます。

- ※音楽ファイル形式がDSD64の場合、DSD2.8MHzと表示
- ※音楽ファイル形式がDSD128の場合、DSD5.6MHzと表示
- ※音楽ファイル形式がDSD256の場合、DSD11.2MHzと表示

ディスプレイの明るさを変える

リモコンの「DISPLAY」を押すと表示設定が切り替わります。

「DISPLAY」を押して、Display High、Display Low、Display Offを選択します。「DISPLAY」を押すたびに次の表示設定が選択されます。

ディスプレイがオフのとき、任意のキーを押すとディスプレイが一時的にオンになります。しばらくすると表示が消えます。

※注意：本機の電源を入れ直すと、ディスプレイの設定がHighに戻ります。

USB -28dB
Unlocked

USB -20dB
DSD 11.2MHz

Display High

Display Low

Display Off

6: 基本操作 - 3

デジタルフィルターについて

デジタルフィルターの必要性

音声信号をアナログからデジタルに、デジタルからアナログへ等の、変換する過程で本来は無かった音声信号が、演算上で発生してしまいます。

本来、記録されていない音声信号なのでノイズ成分と言えます。

デジタル音声の欠陥という程の大きな問題ではないですが、音声信号の記録、再生という目的においては、ノイズを除去しなくてはなりません。

本機にはPCMオーディオ用に7つのデジタルフィルターがあります。

フィルタリング方法の違いにより、僅かながら出力音声の質感や位相感の違いがあります。それぞれのデジタルフィルターを選択する事が可能です。

※通常の使用では、“Optimal Transient XD”の使用を推奨します。

※工場出荷時は“Optimal Transient XD”となっています。

デジタルフィルターの選択

現在のPCMフィルターを表示するには、「FILTER」を1回押します。

フィルターを変更するにはもう一度「FILTER」を押します。

または、「MENU」を押してメニューモードにして、◀◀もしくは▶▶を押して、メニューモードを「Digital Filter」を選択し、▶▶を押すと選択メニューに入ります。フィルターの選択メニューでは、◀◀または▶▶でフィルターを選び、▶▶でフィルターを決定します。

“Optimal Transient”フィルターは、音声信号の性質を保持したままノイズの発生を抑えます。このフィルタータイプは「音の自然さ」を目的として使用する事をお勧めします。

“Optimal Transient”には種類が3種類あります。

それぞれ同一の周波数特性と時間軸特性をしていますが、フィルター内部の強弱にそれぞれ違いがあり、音のニュアンスにもそれぞれ違いがあります。

“Sharp Rolloff”フィルタは、工業規格のフィルター特性で、フィルター変化によるノイズ除去の比較参照をする目的で含まれています。

“Slow Rolloff”フィルタは、“Sharp Rolloff”よりも低い周波数でフィルターを開始します。減衰率は緩やかで、時間軸上のノイズは大幅に少なくなります。ノイズが目立つ場合以外、このフィルタを使用することはお勧めできません。

“Minimum Phase”フィルタは、“Slow Rolloff”に似た緩やかな周波数減衰特性を持っていて、時間軸特性に優れています。マイルドな印象を与えます。

“Optimal Spectrum”フィルタは周波数特性では、完全な再現が得られるように設計されています。その反面、時間軸上のノイズが残ります。透明感のある印象を与えます。

DSDモードでは、“Normal”、“50K”、“60K”、“70K”の4つのフィルタがあり、カットオフは、それぞれ順に47k、50K、60k、70kになります。

これらのフィルターの特性を調整し、お好みの音のニュアンスを選んで下さい。

Audiolab製品は、ユーザーの用途に応える幅広いフィルタを独自に提供します。

8: 保証とアフターサービス

弊社製品及び取扱いブランドの商品において、修理や返品、返金など、金銭に関わる場合につきましては、弊社はユーザー様へ直接の対応を行うことができません。お手数をおかけしますが、保証規定をご確認の上、ご購入履歴（レシートや納品書など）と、保証書をご用意いただき、ご購入された販売店へご連絡いただけますようお願いいたします。

※ご連絡なく弊社へお送りいただいた場合、対応する事ができません。

保証書について

この製品には保証書が添付されています。

保証書は、お買い上げの際に販売店が「お買い上げ日・販売店名」等を記入した上でお渡しいたします。記入事項及び記載内容をご確認の上、大切に保管してください。

初期不良について

商品を購入後、初期不良が理由で商品を返品するためには、以下の条件を全て満たす必要があります。

- ① お客様が商品を購入してから1週間以内に販売店宛に連絡があること。
- ② 販売店もしくは販売代理店にて、初期不良と確認できた場合。
- ③ お買い上げ時の梱包材、箱、保証書、付属品等が全て揃っていること。
- ④ 製品の交換、修理等の対応の最終的な判断は、弊社にて行うこと。

ただし次の場合は、初期不良による交換・返品はできません。

- ・ 納品書・領収書を紛失された場合。
- ・ お客様の誤った使用方法により傷、破損、汚損、あるいは故障が発生した場合。
- ・ 弊社が商品の内容や品質に問題がないと判断する商品。
- ・ 特別の事情がなく、ご連絡後速やかに商品が弊社に届かなかった場合。
- ・ お客様の一方的な都合による場合。

保証期間中の修理

正常なご使用状態のもとで万一故障が生じ、保証期間に該当する場合、弊社にて無償の修理を行います。修理に際しましては保証書をご提示ください。

保証書の規定に従って、修理させていただきます。

※注意：保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。梱包箱を含めた付属品はアフターサービスの際に必要なになります。大切に保管してください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理いたします。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。

測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。

その他修理に付帯する部品等を含む場合もあります。

その他：製品を送るために必要な送料/梱包料などがあります。

※注意：すでに製品が完了している製品に関しては、部品等の供給も終了している場合があります。純正部品や代替部品による修理が不可能な場合や、本体の著しい破損/欠損の為に修理不能と判断した場合には、ご返却させていただく場合があります。

予めご了承ください。

依頼の際ご連絡いただきたい内容

- ・ お名前、ご住所、お電話番号
- ・ 製品名・・・取扱説明書の表紙に表示しています。
- ・ 製造番号・・・保証書と製品背面に表示しています。
- ・ 故障の状況(できるだけ詳しく)

送料について

往復共にお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。

(但し初期不良の場合を除く)

並行輸入品について

弊社が正規輸入しました製品の補修用部品等は海外メーカーより、正規輸入品に対して供給されておりますので、日本正規総販売代理店製品の並行輸入品に関する修理、メンテナンス、及びアフターサービスにつきましては、一切受付けておりませんのでご注意ください。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。

この機器に関して、当社の指定サービス機関以外による修理や改造が行われた場合は保証期間内であっても保証対象外となります。

9:仕様

(100V電源で測定)

出力電圧	4.2Vrms±0.1 (バランス) 2.1Vrms±0.1 (アンバランス)
出力インピーダンス	10Ω
歪み率(THD)	<0.002% (1kHz、0dB、20Hz～20kHz、Aウェイト)
周波数特性	20Hz - 20kHz (± 0.2dB)
S/N比	<-100dB Aウェイト (バランス) <-98dB A (アンバランス)
ダイナミックレンジ (Aウェイト)	>100dB (バランス) >98dB (アンバランス)
クロストーク (@ 1kHz)	<-130dB (バランス) <-120dB (アンバランス)
ゲイン誤差	<0.5W
電源	100VAC (50/60Hz)
寸法 (mm) (W x H x D)	444 x 80 x 317
カートンサイズ (mm) (W X H X D)	500 x 140 x 455
重量	6.0kg 本体重量 7.5kg 総重量 (梱包含む)

Audiolab 総輸入代理店

ESF | **EASTERN
SOUND
FACTORY**

株式会社イースタンサウンドファクトリー

〒223-0056

神奈川県横浜市港北区新吉田町205

Tel: 045-548-6592

Fax: 045-548-6593

HP: <http://esfactory.co.jp/>